

設置計画の概要

事項	記	欄										
事前相談事項	事前伺い											
計画の区分	学部の課程の設置											
フリガナ者	コリツダイガクホウジン アイチキョウイクダイガク 国立大学法人 愛知教育大学											
フリガナ名称	アイチキョウイクダイガク 愛知教育大学 (Aichi University of Education)											
新設学部等において養成する人材像	【教育支援専門職養成課程】 教育に関する基礎知識に加え、心理、福祉、教育行政に関する専門的知識及び技能を習得し、学校において、教員と連携・協働して、複雑化・困難化する学校現場が抱える様々な教育課題の解決に①臨床心理の専門職として貢献できる人材、②福祉の専門職として貢献できる人材、③教育行政の専門職として貢献できる人材を養成する。											
既設学部等において養成する人材像	【現代学芸課程】 社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成をめざすことを目的とする。											
新設学部等において取得可能な資格	【教育支援専門職養成課程】 ・社会教育主事 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会教育に関する科目の履修が必要 ・公認心理師 ① 国家資格, ② 国家試験受験資格取得可能 (一定の実務経験若しくは、定められた大学院の修了が必要) ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、心理学に関する科目の履修が必要 ・社会福祉主事 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会福祉に関する科目の履修が必要 ・社会福祉士 ① 国家資格, ② 国家試験受験資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会福祉に関する科目の履修が必要 ・スクール(学校)ソーシャルワーカー ① 社会福祉士資格取得者の追加資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、スクール(学校)ソーシャルワークに関する科目及び社会福祉士に関する科目の履修が必要											
既設学部等において取得可能な資格	【現代学芸課程】 ・中学校教諭1種(国語・社会・理科・美術・英語) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・高等学校教諭1種(国語・公民・理科・美術・英語・情報・福祉) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・学校図書館司書教諭 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教育職員免許状申請に必要な科目及び学校図書館司書教諭に関する科目の履修が必要 ・社会教育主事 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会教育に関する科目の履修が必要 ・学芸員 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、博物館に関する科目の履修が必要 ・社会福祉主事 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会福祉に関する科目の履修が必要 ・社会福祉士 ① 国家資格, ② 国家試験受験資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会福祉に関する科目の履修が必要											
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
	教育学部 [Faculty of Education]	教育支援専門職養成課程 [Training Programs for Educational Support Professionals]	4	130	-	520	学位又は称号		学位又は学科の分野	平成29年度	異動元	助教以上
							学士(教育学) [Bachelor of Education]	教育学・保育学関係	中等教育教員養成課程		6	3
									現代学芸課程	14	7	
									大学院教育学研究科	4	2	
		大学院教育実践研究科	2	0								
		新規	2	0								
		計	28	12								
既設学部等の概要	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
	教育学部	初等教育教員養成課程	4	392	-	1,568	学位又は称号		学位又は学科の分野	平成12年度	異動先	助教以上
							学士(教育学)	教育学・保育学関係	初等教育教員養成課程		44	20
									計	44	20	
									教育支援専門職養成課程	6	3	
									中等教育教員養成課程	100	55	
									退職	2	2	
		計	106	60								
		特別支援学校教員養成課程	7	4								
		計	7	4								

(既設学部等の概要)	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	(教育学部)		養護教諭養成課程	4	40	-	160	学士(教育学)	教育学・保育学関係	平成12年度	養護教諭養成課程	6
										計	6	3
		現代学芸課程(廃止)	4	232	-	928	学士(学芸)	教育学・保育学関係、文学関係、理学関係、美術関係	平成19年度	教育支援専門職養成課程	14	7
										中等教育教員養成課程	40	14
										退職	2	2
										計	56	23

【備考欄】			
【改組前】		【改組後】	
初等教育教員養成課程 392人	→	初等教育教員養成課程	定員増455人(+63)
中等教育教員養成課程 186人	→	中等教育教員養成課程	定員増210人(+24)
特別支援学校教員養成課程 25人	→	特別支援学校教員養成課程	定員増 30人(+5)
養護教諭養成課程 40人	→	養護教諭養成課程	40人
現代学芸課程 232人	→	現代学芸課程	廃止 0人(△232)
		教育支援専門職養成課程	新設 130人(+130)
学部計 875人		学部計 865人(△10人)	

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育支援専門職養成課程)

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	教養科目	基礎教養科目	初年次演習	1前	1					○			2	1	1			
			課題探究科目	市民リテラシー	1前～2後		2			○				1	1			兼1
				多文化リテラシー	1前～2後		2			○				1	1			兼2
				科学リテラシー	1前～2後		2			○								兼3
		ものづくりリテラシー		1前～2後		2			○								兼2	
		教師教養科目	現代的課題対応科目	特別支援教育基礎	1後～3前	2			○									兼1
				発達障害のある児童生徒理解基礎	1後～3前	2			○									兼3
				外国人児童生徒支援教育	1後～3前	2			○									兼1
				危機管理	1後～3前	2			○									兼3
			実践力育成科目	初年次学校体験活動	1前・1後	1						○						
	学校サポート活動Ⅰ			2後	2						○							兼1
	日本国憲法	実践力育成科目	学校サポート活動Ⅱ	3前～4後		1				○							兼1	
			自然体験活動	3前～4後		1				○							兼1	
			多文化体験活動	3前～4後		1					○						兼1	
			企業体験活動	3前～4後		1					○						兼1	
			小計(31科目)	—	22	20	0	—					2	4	3	2	0	
	外国語科目	英語	英語Ⅰ	1前	1					○		1			1		兼4	
			英語Ⅱ	2後	1					○		1					兼4	
		初習外国語科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1後		1				○							兼4
				ドイツ語Ⅱ	2前		1				○							兼4
			フランス語	フランス語Ⅰ	1後		1				○							兼2
				フランス語Ⅱ	2前		1				○							兼2
			中国語	中国語Ⅰ	1後		1				○							兼2
中国語Ⅱ				2前		1				○							兼2	
ポルトガル語		ポルトガル語Ⅰ	1後		1				○							兼2		
		ポルトガル語Ⅱ	2前		1				○							兼2		
英語コミュニケーション		英語コミュニケーションⅠ	1後	1					○			1			1		兼2	
		英語コミュニケーションⅡ	2前	1					○			2					兼2	
スポーツ科目	スポーツⅠ	1前・1後	1					○								兼4		
	スポーツⅡ	2前・2後	1					○								兼4		
小計(31科目)			—	22	20	0	—				2	4	3	2	0			
専門教育科目	課程内共通科目	教育学基礎科	教育学概論	1前	2				○				1					
			教育原理	1前	2				○				1					
			教育心理学	1前	2					○			1					
			教育経営学	1前	2					○			1					
			生涯学習概論	1後	2					○			1					
	教育支援科目	教育支援と心理	1前	2					○			1						
		教育支援と福祉	1前	2					○				1					
		教育支援と教育ガバナンス	1前	2					○			1						
		生涯発達心理学	1後		2				○				1					
		学校と家族	1後		2				○				1					
		教育と人間関係論	1後		2				○			1						
		心と身体	1後		2				○			1						
		社会学概論	1後		2				○			1						
		社会福祉原論Ⅰ	1後		2				○								兼1	
		児童・家庭福祉論	1後		2				○				1					
地域福祉論	1後		2				○				1							
子ども法入門	1後		2				○						1		兼1			
グローバル文化・社会論	1後		2				○			1								
ジェンダー史入門	1後		2				○				1							
情報セキュリティと情報モラル	1後		2				○								兼1			
小計(20科目)			—	16	24	0	—				6	5	2	1	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
(専門教育科目)	心理コース専攻科目 人間心理を理解する科目群	心理学概論	2前	2		○				1	1			兼1 兼5 兼1 兼1	オムニバス	
		青年心理学	2前	2		○					1					
		認知心理学	2前	2		○										
		乳幼児心理学	2前	2		○										
		児童思春期の心理	2後	2		○			1							
		思考心理学	2後	2		○										
		言語心理学	2後	2		○										
		心理学統計法	3前	2				○			1					
		心理学研究法	3後	2				○			1					
	パーソナリティ論	3後	2	2		○			1							
	群法を 理解する 教育方 科目群	教育評価	3前	2		○								兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		教授心理学	3前	2		○										
		障がい児(者)心理学	3後	2		○					1					
		教育相談論	3後	2		○				1						
		キャリアデザイン	4前	2		○										
	科目群 臨床を 理解する	臨床心理学概論	2前	2		○			3	2	2			兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		教育臨床学	2後	2	2	○			1							
		子どもの心理療法	3前	2		○					1					
		チーム支援論	3前	2	2	○				1						
		地域と家族	3後	2		○				1						
		スクールカウンセリング概論	4前	2		○										
	域を 理解する 医学領 科目群	医学概論	2前	2		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		精神医学概論	2前	2		○										
		医療心理学	2後	2	2	○			1							
		健康心理学	3前	2	2	○					1					
		認知行動療法論	4前	2		○										
		集団心理療法論	4前	2		○										
心理学の 知識技能を 学ぶ科目群	心理学基礎実験実習Ⅰ	2前	1				○						兼1 兼2 兼2 兼1	オムニバス		
	心理学基礎実験実習Ⅱ	2後	1				○									
	心理検査実習Ⅰ	2前	1				○		1							
	心理検査実習Ⅱ	2後	1				○									
	心理面接実習Ⅰ	3前	1				○		1							
	心理面接実習Ⅱ	3後	1				○		1							
	心理臨床・実践領域実習Ⅰ	3前	1				○		3	2	2					
	心理臨床・実践領域実習Ⅱ	3後	1				○		3	2	2					
	心理臨床・実践機能論	3後	2			○										
	教育臨床心理学演習Ⅰ	3前	2				○		3	2	2					
	教育臨床心理学演習Ⅱ	3後	2				○		3	2	2					
	教育支援心理演習Ⅰ	4前	2				○		3	2	2					
教育支援心理演習Ⅱ	4後	2				○		3	2	2						
小計(40科目)		—	10	62	0	—			3	2	2	0	0			
福祉コース 専攻科目	人間を 理解する 科目群	心理学概論	2前	2		○						1		兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		精神保健論	2前	2		○										
		心と身体を理解	2後	2		○										
		医学概論	2後	2		○										
		介護概論	2後	2		○										
	生活を 理解する 科目群	カウンセリング心理学	2後	2		○						1		兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		公的扶助論	2前	2		○										
		障害者福祉論	2前	2		○										
		高齢者福祉論	2前	2		○										
		就労支援論	2前	1		○										
		社会調査論	2前	2		○				1						
		社会福祉原論Ⅱ	2後	2		○										
		司法福祉論	2後	1		○										
		権利擁護と成年後見	2後	2		○										
		保健医療論	3前	2		○										
社会調査演習	3前	2				○										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
(専門教育科目)	(教育ガバナンスコース専攻科目)	教育を柱とする科目群	学校経営論	3前	2		○									兼1	オムニバス
			自治体子ども施策論	3前	2		○			1						兼1	
			「子ども権利」論	3後	2		○									兼1	
			教育課程概論	3後	2		○									兼1	
			NPOと学校	4前	2		○			1							
			学校コンフリクト論	4前	2		○			1							
			インクルージョンと法	4前	2		○									兼1	
			家族支援論	4後	2		○			1							
			公法学概論	3前	2		○									兼1	
			子ども法Ⅰ	3前	2		○							1		兼1	
	子ども法Ⅱ	4前	2		○									兼1			
	少年法演習Ⅰ	3前	2				○					1					
	少年法演習Ⅱ	3後	2				○					1					
	公法学演習Ⅰ	3前	2				○							兼1			
	公法学演習Ⅱ	3後	2				○							兼1			
	行政法	3後	2				○							兼1			
	行財政を柱とする科目群	比較政治学	3前	2			○								兼1		
		現代政治論	3後	2			○								兼1		
		現代政治史	3後	2			○								兼1		
		政治学演習Ⅰ	3前	2				○							兼1		
		政治学演習Ⅱ	3後	2				○							兼1		
		国際経済学	3前	2			○					1					
		経済政策論	3前	2			○					1					
		学校財政論	3後	2			○								兼1		
		金融経済教育論	3後	2			○					1					
		金融論	3後	2			○					1					
	経済学演習Ⅰ	3前	2				○				1						
	経済学演習Ⅱ	3後	2				○				1						
	情報を柱とする科目群	教育情報化概論	3前	2			○			1	1						
		教育情報システム論	3前	2			○			1							
		学校事務情報論	3前	2			○			1							
		情報セキュリティマネジメント	3前	2			○								兼1		
		実践教育情報概論	3後	2			○								兼1		
		学校情報演習	3後	2				○							兼1		
		ICTとキャリア論	3後	2			○								兼1		
		ICTと教育環境論	3後	2			○								兼1		
	ICTと学校評価論	3後	2			○								兼1			
	グローバルを柱とする科目群	多文化理解Ⅰ	3前	2			○			1	2						
		多文化理解Ⅱ	3後	2			○				1						
		現代社会論	3後	2			○										
		Advanced EnglishⅠ	3前	2			○			2			1				
		Advanced EnglishⅡ	3後	2			○			2			1				
World EducationⅠ		3前	2			○			1								
World EducationⅡ		3後	2			○			1								
異文化理解のための現代史		3後	2			○				1							
小計(68科目)	—	10	126	0	—			9	5	1	2	0					
卒業研究	4前後	10					○										
合計(206科目)	—	77	314	0	—			12	9	5	2	0					
学位又は称号	学士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係										

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1 本学の理念と目的

愛知教育大学は、1873年に愛知県養成学校として創立され、以来、教育現場で活躍し続ける教員の養成並びに広く社会に貢献できる教養豊かな人材の育成に努めてきた。しかしながら、第2期中期目標期間では、文部科学省から「大学改革実行プラン」（平成24年6月）、「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」（平成25年6月）、「国立大学改革プラン」（平成25年11月）が示され、大学の強みや特色を重点化し、担うべき社会的な役割を明らかにした「ミッションの再定義」を策定したことから、これに基づく大学改革を速やかに実行し、大学の機能を一段と強化することが求められている。

「ミッションの再定義」では、本学の使命を「教育委員会等との連携等により、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用を目指すことを基本的な目標とし、教員養成機能の更なる強化に向けて質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献する。」と明記した。特に、「学士課程教育については、附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用するなど、実践的な能力を育成しつつ、教科及び教職に関する各授業科目を有機的に結びつけた体系的な教育課程によって義務教育諸学校の教員を中心に養成することにより、広域の教員養成機能の拠点的作用を担う。」とし、さらに、「現代学芸課程については、第3期中期目標期間末までに規模の縮小とともに社会的要請を踏まえた抜本的な見直しを図る。」と定めた。

そこで、「広域の拠点的作用を有する教育大学」としての機能を強化するため、「高度化」を主軸とした「実践力の育成」と「再教育」を行う「教育の総合大学」構想を改革の基本理念とし、小中一貫教育の推進、教職大学院の拡充、教育学研究科の大きくくり化なども勘案しつつ、地域に貢献する教育分野の総合大学として、教員養成機能の強化を図ることとした。また、現代学芸課程は、「規模の縮小とともに社会的要請を踏まえた抜本的な見直しを図る」という方針に基づき、教育課題の多様化・深刻化や、教員の多忙化が社会にクローズアップされる現状を鑑みて、中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」（平成27年12月21日）が提示している「チームとしての学校」が今後の学校教育を支えていく上で重要になるとの考えに立ち、現代学芸課程を「教育支援専門職養成課程」に改組するものである。

2 設置の背景と必要性

次代を担う子供たちには、時代の変化に対応した様々な力を身につけさせる必要があり、アクティブ・ラーニングの充実、道徳教育の充実、グローバル化への対応、ICTの活用などの実現に果たす教師の役割は大きく、一人一人の教師の能力を生かすことのできる学校体制の整備が求められる。

その一方で、教育現場はいじめ・不登校・暴力行為・貧困・児童虐待などの様々な課題を抱えており、発達障がいへの対応を含む特別な教育支援を必要とする子供たちへの対応、感染症やアレルギー等への対応も求められている。これらの多様化、複雑化、深刻化している課題の解決には、家庭の状況に応じた対応、キャリア教育や進路指導の充実、保護者や地域との協力関係の構築などが必要となっている。

加えて、2013年OECD国際教員指導環境調査によれば、我が国の教員は、課外活動や事務作業のような授業以外の業務に多くの時間を費やしており、中学校段階の教員の1週間あたりの勤務時間は、調査参加国34カ国・地域のうちで最長であるなど、教員一人で解決を図るには忙しすぎる状況がある。

このような事態を踏まえ、平成26年7月の教育再生実行会議（第五次提言）では、「教師が子供と向き合う時間を確保し、教育活動に専念できるようにする観点から、学校経営を支える管理・事務体制の充実、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの多様な専門職の配置や活用が進むよう、制度面・財政面の整備を行う。」との提言がなされた。これを受け、文部科学大臣から中央教育審議会に「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」の諮問がなされ、「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会（いわゆる、チーム学校部会）」において、教員とは異なる専門性や経験を有する専門的スタッフを学校に配置し、学校組織全体が一つのチームとして力を発揮する方策等が検討されてきた。また、教育再生実行会議の第七次提言（平成27年5月）においては、「学校経営を支える事務職員の充実を図り、教師と事務職員の役割分担を見直すことや、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員、学校司書、ICT支援員等の配置を行うことにより、「チーム学校」を実現する。」とされている。

教員養成を主軸とする本学では、次代を担う子供たちの育成にむけて、教科に関する高度な専門的知識・技能を有し、多様化、複雑化、深刻化する教育諸課題に適切に対応できる確かな実践的指導力を身に付けた教員を育てている。教員がそれぞれ有している力を確実に発揮し、一人一人の子供に時間と手間をかけて、個に応じた適切な対応ができるようにするためには、教育再生実行会議や中央教育審議会答申に述べられているような専門的な立場から教員をサポートする専門職の養成も、本学のような大規模教員養成大学の果たすべき使命である。そこで、これまでのリソースを生かし、新たに子供たちの生活環境や学習環境の問題にかかわることのできる素養を強化して、教員と連携・協働して、学校が有する教育課題の解決に貢献できる教育支援に関わる専門職の養成を目的とした「教育支援専門職養成課程」を設置する。

なお、本課程が育成を目指している「教育支援専門職」とは、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の各学校において学校事務職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等として勤務する専門職であり、さらに、国や各市町村の専門機関や行政機関において心理職、福祉職、事務職として勤務し、子供の教育を多方面から支援する専門職である。

3 養成する人材像

子供たちへの教育を様々な視点から見つめ、専門的な能力を生かして、教員と連携・協働して教育活動を行うことのできる人材であり、かつ、学校全体や子供たちの生活状況等に関心を持ち、教員の職務を理解して、必要に応じて柔軟に業務を行うことのできる人材を養成する。

具体的には、第一に、心理の専門家として、児童生徒等へのカウンセリングを行い、時にはストレスへの対処などの教育プログラムを実施し、当該の児童生徒等への対応について教職員や保護者に対して専門的な助言を行うことのできる、学校の教育活動や子供の発達に精通したカウンセラーの育成である。

第二に、福祉の専門家として、問題を抱えている子供たちの家庭環境の実現を早期にとらえ、関係者や関係機関とのネットワークを構築し、相互の連携をはかって問題解決を図るなど、学校のチーム体制を中核として地域の中で支援する体制づくりに貢献できる、学校の教育活動や子供の生活に精通したスクールソーシャルワーカーなどの社会福祉職の育成である。

第三に、教育行政にかかわる事務の専門家として、総務・財務等に関する事務以外に、学校運営事務や学校組織マネジメントの素養を持ち、地域連携や学校評価、危機管理に積極的ににかかわり、各種調査データの分析やICT機器の活用を行うことのできる、学校の教育活動や子供の教育に精通した教育行政事務職の育成である。

これらの育成方針を基に、教育支援専門職養成課程に心理コース、福祉コース、教育ガバナンスコースの3つのコースを設ける。各コースで養成する人材像は以下の通りである。

(1) 心理コース：

子供を取り巻く環境の変化によるいじめや不登校・ひきこもり、発達障がい児支援など学校教育の課題、また、児童虐待や高齢者虐待、自殺などの社会的ニーズのある新たな課題に適切に対処するためには、子供個人の心の理解のみならず、子供が生活している環境への支援が欠かせない。子供たちの健全な発達を促すためには、安全な生活が保障され、家庭や学校という環境の中で子供の安心感を醸成することが必須である。これらの課題に対応するためには、子供の心や行動のプロセスを理解し、子供の健全な発達を支援するために、家庭・学校・地域と連携して子供の安全な生活を支援する人材が求められている。本コースでは、教員養成大学として子供の発達を支える教育及び研究の成果を挙げてきたという特色を活かし、さらには本学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻における臨床心理士の養成の実績を踏まえ、新たにスクールカウンセラーをはじめとした家庭・学校・地域における子供の教育や安全な生活を支援する「チーム学校」を担う心理の専門職の養成を行う。

これにより、卒業後の進路として、公認心理師、あるいは、大学院との接続による臨床心理士の資格を取得したスクールカウンセラー等、学校や地方自治体等の公的機関における心理専門職を想定している。

そのために、本コースでは、専門科目群において、「人間心理を理解する科目群」により人の心や行動のプロセスから人間を理解し、「学校現場の教育方法を理解する科目群」により学校教育の方法を理解し、「心理臨床を理解する科目群」において専門的な子供も支援の理論を学び、「教育に関わる医学領域を理解する科目群」において学校での心の健康や障がいについて学ぶ。また、心理臨床やカウンセリングの実践を学び、学校と家庭や地域の諸機関との連携を学習するために「心理学の知識技能を学ぶ科目群」を修得する。これらの科目を学習することにより、子供と子供を取り巻く環境である家庭・学校・地域社会を総合的に支援する心理分野に長けた教育支援専門職を養成する。

(2) 福祉コース：

子供の生活基盤である家庭では、低所得・貧困問題、虐待・家庭内暴力をはじめとした問題、さらには親や祖父母の介護の問題などが顕在化し、強いてはこれらの課題が不登校やいじめ問題、非行などの反社会的行動へとつながり、子供たちの教育や健全な発達の妨げとなっている。これらの課題に対応するためには、子供の生活基盤である家庭を中心として、学校や地域と連携し、子供の生活を支援する人材が求められている。本コースでは、教員養成大学として子供の成長を支える教育及び研究に取り組んできた特色を活かし、さらには現代学芸課程臨床福祉心理コースの社会福祉士養成の実績を踏まえ、新たにスクールソーシャルワーカーをはじめとした家庭、学校、地域における子供の生活を支援する「チーム学校」を担う福祉の専門職の養成を行う。

これにより、卒業後の進路として、社会福祉士の資格を基礎とし、スクールソーシャルワークの資格を取得したスクールソーシャルワーカー、児童相談機関や病院等における福祉専門職を想定している。

そのために、本コースでは、専門科目群において、「人間を理解する科目群」により心と体の双方から人間を理解し、「生活を理解する科目群」により人間の生活の多様性を理解し、「ソーシャルワーク科目群」においてソーシャルワークの理論と実践を学び、「学校福祉科目群」において学校でのソーシャルワーク実践を学ぶ。また、学校と地域の諸機関との連携を学習するために「地域福祉基盤整備科目群」を学習する。これらの科目を学習することにより、子供と子供を取り巻く家庭・学校・地域社会を総合的に支援する福祉分野に長けた教育支援専門職を養成する。

(3) 教育ガバナンスコース：

いじめ・不登校、貧困・虐待などの生徒指導上の課題に加え、課外活動や事務作業のような授業以外の業務による教員の多忙化が喫緊の課題になっている。教員が授業に専念し、子供に向き合う時間を確保するためには、学校経営や運営を行政的な専門的見地から支援する人材が求められる。本学には、教育学分野のみならず、法律や行財政学分野を専門とする教員が所属しており、学校経営を支える学校事務職員を養成するための基盤となる素地を有しているのみならず、情報教育や多文化理解等の多様な学問分野を専門とする教員がそれぞれの専門で成果を挙げている。こうしたリソースを活用することで、行政に関する専門的な知識や実務能力だけでなく、コミュニケーション能力や企画・立案能力を身に付けた学校事務職員を養成することが可能である。また、最近では、「ガバナンス」の名称を付加した学会等が多数見られるようになり、「行政」よりも広い領域を含み、組織やメンバーの主体的な関わりと、意思決定や合意形成のシステムを重視する「ガバナンス」といった名称が一般的に受け入れられつつある。そこで、本コースは、教育に特化した未来志向の事務職員の養成を表出するために、「教育ガバナンス」という名称を用い、教育活動を調整する教務事務と学校全体の戦略立案、教育活動の条件整備をする管理事務に対応できる資質・能力を備え、学校経営を専門的見地から支援するとともに、情報処理・管理に優れ、国際的な感覚・能力を身に付けた、学校や教育機関で活躍できる高度な教育事務職員の養成を行う。

これにより、卒業後の進路として、学校事務職員、大学事務職員、教育委員会等の教育行政関連機関の事務職員等を想定している。

そのために、「コース共通科目群」を履修することで、教育事務職員に最低限求められる専門的知識を修得する。また、「教育を柱とする科目群」、「法律を柱とする科目群」、「行財政を柱とする科目群」、「情報を柱とする科目群」、「グローバルを柱とする科目群」で専攻科目を構成し、教育を基盤として、学校経営に求められる「教育経営学」や「学校経営論」を学ぶとともに、「学校教育法」や「子ども法」を中心とした法律を学ぶ。また、「行政学」や「財政学」といった行財政に加え、情報処理・管理の技能並びに外国人児童生徒やその保護者に対する支援のあり方を学び、学校や教育機関で教育環境を整備し、教育活動を支援するために必要な専門的知識及び実践力を修得させる。これにより、学校現場で求められる様々な課題に対応する能力を有した高度な教育事務職員を養成する。

II 教育課程編成の考え方・特色

1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程は、全学共通の共通科目と教育支援専門職の養成を実現するための専門教育科目から構成する。「共通科目」として、日本国憲法、情報教育入門、外国語科目、スポーツ科目に加え、新たに再編成した「基礎教養科目」と現代的な教育課題に対する理解を深めるための「教師教養科目」から構成される教養科目を開設する。「専門教育科目」には、教育支援を担う専門職に共通に求められる基礎的な知識及び技能を習得するための「課程内共通科目」、高度な専門職業人に求められる深い学識と専門的な能力並びに実践力を培うための「専攻科目」及び「卒業研究」を配置する。さらに、専門教育科目とは別に、幅広く学識を深めるために、課程内他コース及び教員養成4課程で開講される科目を自由に履修できる自由科目を設ける。

本学では、学生の主体的な学修を促し、充実した授業展開を実現するために、履修登録単位数を制限し、各学年20単位を上限としている。ただし、卒業研究を履修する学年においては、学習時間を確保するために、教員養成4課程は各学期17単位、教育支援専門職養成課程は15単位とし、卒業研究の単位は制限単位数に含めない。

科目区分			単位数
共通科目	教養科目	基礎教養科目	初年次演習 1
			課題探究科目 4
		教師教養科目	現代的教育課題対応科目 8
			実践力育成科目 4
		日本国憲法 2	
		情報教育入門 2	
		外国語科目 6	
	スポーツ科目 2		
	計	29	
専門教育科目	課程内共通科目	教育学基礎科目 10	
		教育支援科目 12	
		専攻科目 50	
		卒業研究 10	
		計	82
自由科目		計	17
		合計	128

2 教育課程編成の特色

(1) 教養科目の改編

教育現場では、いじめ・不登校への対応、貧困・児童虐待などの課題を抱えた家庭への対応、発達障がいを含む特別支援教育の充実、ICT機器の活用、外国人児童生徒への支援等の様々な教育課題に適切かつ迅速に対応することが求められている。このような今日的な教育課題に対する理解を深めるとともに、様々な課題に対峙する中で「課題を発見する力」、「情報を読み取る力」、「複眼的に物事をとらえる力」、「他者と協働する力」、「解決に導く力」といった汎用的能力を身に付けさせること、市民社会の形成者として求められる一般常識や態度を獲得させることを目標に、教養科目を「基礎教養科目」及び「教師教養科目」に改編する。これらの教養科目は、教員を目指す学生のみならず、教育支援を担う専門職にも求められる資質・能力であることから、全学共通の教養科目に位置づけ、教育支援専門職養成課程の学生も履修する。

(2) 実践力育成科目の設定

自然や人あるいは社会等と関わる「体験活動」は、社会で生き抜くための基礎的な能力を養うとともに、他者とのコミュニケーション能力や協働する能力を育むのに効果的である。特に、教員を目指す学生にとって、子供たちの体験活動にボランティア等として参加することは、子供理解を涵養し、教員としての資質能力の育成に有効である。また、グローバルな視点や異文化理解の態度や能力の育成に、「海外体験活動」は欠かせない。そこで、実践力の育成を目的とした「学校サポート活動」をはじめとする様々な体験活動を教員養成課程のみならず教育支援専門職養成課程にも開講する。なお、「学校サポート活動」は、両課程の学生を区別することなく、学生が個別に各学校で活動する予定であるが、それぞれの学生には、教員あるいは教育支援者としての意識付けや役割等を事前のガイダンス等で指導する。

(3) 課程内共通科目の設定

本課程には、「教育学基礎科目」と「教育支援科目」から構成される課程内共通科目を設けた。本課程は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校事務職員等の「チーム学校」を担う専門職を養成することを目的としているため、教員養成課程の学生と同様に、「教師教養科目」や「実践力育成科目」といった全学共通科目を履修させるとともに、課程内共通科目では教育や人間の発育・発達に関する基礎理論を学ぶ「教育学基礎科目」5科目を必修科目に設定する。これらの授業科目を修得することで、教育や学校に対する知見を身に付けた本学ならではの専門職の養成を目指す。また、これら専門職と教員が、互いに連携・協働することで「チーム」としての機能が発揮されることから、教育支援に関わる科目を設定した。教育現場におけるそれぞれの専門職の役割や現状を経験者のゲストスピーカーなどから学び、「チーム支援」の基本的な考え方及び教員を含めた「チーム」としての協働の有効性を修得する。また、心理コース、福祉コース、教育ガバナンスコースのそれぞれにおいて基盤となる科目を履修し、各専門職の基礎的な専門知識に加えて、広い視野を持った教育支援者を育成する。なお、課程内共通科目は、8科目の必修科目と12科目の選択必修科目を設け、合計で22単位を取得する。

(4) 専攻科目の設定

本課程では、心理コース、福祉コース、教育ガバナンスコースの3コースに分かれ、それぞれの専門職に応じた専攻科目を履修する。なお、本学では、専門を深めるための専門科目を専攻科目と呼称している。

①心理コースは、5つの科目群で専攻科目を構成している。「人間心理を理解する科目群」は、「心理学概論」や「心理学統計法」といった科目を中心として、人間の心理を理解するための基礎的な知識や方法を学習する科目群である。これらの科目に加え、「乳幼児心理学」、「児童思春期の心理」、「青年心理学」「パーソナリティ論」等といった対人援助の基盤である人間心理の理解及びその方法論についても学習する。「学校現場の教育方法を理解する科目群」は、「教授心理学」や「教育相談論」等の科目を開講しており、学校現場での児童生徒への教育方法の理解を目指す。また、「障がい児（者）心理学」では、現代的な教育課題である発達障がい児への理解や支援を学習する。「心理臨床を理解する科目群」は、教育支援専門職養成課程の核となる専門的な子供への支援の在り方、さらには、チーム学校を実現すべく、学校内連携や保護者・家庭、校外の諸機関との連携の在り方などを総合的に学習する科目群である。具体的には、「臨床心理学概論」、「教育臨床学」、「チーム支援論」及び「スクールカウンセリング概論」等の科目を開講している。「教育に関わる医学領域を理解する科目群」では、発達障がい児、うつや引きこもり、暴力や災害などの被害によるメンタルヘルスの問題を抱えた子供の支援に必要な医学領域に関わる知識を習得すべく、「医学概論」等を開講しており、医療現場では広く普及している「認知行動療法論」や「集団心理療法論」といった実践性の高い心理療法も学習する。「心理学の知識技能を学ぶ科目群」では、実習科目として、心理学の応用実践の基礎となる「心理学基礎実験実習Ⅰ」や「心理学基礎実験実習Ⅱ」の科目を開講し、さらに、カウンセリングや心理アセスメント等の支援的知識技能を習得できる科目として、「心理検査実習Ⅰ」や「心理検査実習Ⅱ」、学校現場や医療現場での連携の実践を学習する「心理臨床・実践領域実習Ⅰ」等を開講している。

②福祉コースは、5つの科目群で専攻科目を構成している。社会福祉を基礎とした対人援助の専門職は、人間を心と体の両面から総合的に把握する必要があることから、「人間を理解する科目群」では、「心理学概論」や「心と身体を理解」といった科目を中心として、人間の存在そのものを重点的に学習する科目を開講する。これらの科目に加え、「カウンセリング心理学」などといった心と体にかかわる科目を開講し、対人援助の基盤である人間理解に力点を置いている。次に、社会福祉学では人間の生活に介入する専門職であることから、人間の生活について学習する「生活を理解する科目群」を開講している。この生活理解とは、生活を子供の生活のみならず、家庭の生活、地域の生活という視点から幅広くとらえるために、児童のみならず、高齢者や障害者、低所得者など幅広く学習するものである。ここでは、学習する人間のいのちの基盤である生活のあり方、そして、社会の仕組みを理解する科目群である。「社会福祉原論Ⅱ」、「障害者福祉論」等では、生活の多様性を学習し、「社会調査論」や「社会調査演習」では、社会の在り方やそれらを分析する力を養う。次に、社会福祉学では、ソーシャルワークを用いた対人援助を行うことから、「ソーシャルワーク科目群」を開講しており、ここでは、社会福祉実践の基礎となるソーシャルワークについて、知識と技術のみならずその価値を含めた総合的な支援の在り方を学習する。ソーシャルワークの基礎を学習する科目として「ソーシャルワーク総論」、知識と方法を学習する科目として、「ソーシャルワーク」、それらを実践的に学ぶ演習科目として「ソーシャルワーク演習」、実習科目として「ソーシャルワーク実習指導」と「社会福祉実習」を開講している。学校の中だけにおける子供支援という狭い枠にとらわれず、家庭や地域で起こる様々な人間の生活に対応できるジェネラリストなソーシャルワーカーを養成するよう、ソーシャルワークの科目群を充実させている。さらに、教育支援専門職として子供・家庭を学校を通じて支援する能力を養う必要があることから、「学校福祉科目群」を開講しており、子供の生活課題を学習する科目として、「教育相談論」等があり、学校を始めとした諸機関との連携を学習する科目として「スクールソーシャルワーク演習」等を開講している。最後に、学校は地域の機関であり、地域の中での連携により、子供たちを支えていく視点を養うために、「地域福祉基盤整備科目群」を開講しており、ここでは、学校のみならず、地域社会で生活していくための基盤整備の考え方や方法論、社会資源としての諸制度の理解を深め、ソーシャルワーク実践をより充実させていく科目を開講している。地域福祉の基盤整備に関する科目として「コミュニティワーク」や「コミュニティ心理学」等を開講している。

③教育ガバナンスコースは、コースの学生が共通に履修する「コース共通科目群」を土台にして、6つの科目群で専攻科目を構成している。「コース共通科目群」は、学校事務職員に最低限求められる教育、法律、行財政分野の専門的知識を学ぶための科目群である。「教育法学概論」や「教育事務概論」等により、教育法や教育行政について学び、「少年法概論」を通して、子供に関する法律を学び、さらに、「行政学概論」や「財政学概論」等を学ぶことで、学校における行財政の基本的な規則やその執行について履修する。また、「コース共通科目群」では、全学共通の「英語Ⅰ」の上位に位置付ける「Intermediate EnglishⅠ」等を学び、グローバル化に対応できる語学力を身に付ける。さらに、「学校経営論」等の「教育を柱とする科目群」、「子ども法」等の「法律を柱とする科目群」、「現代政治論」等の「行財政を柱とする科目群」、「教育情報化概論」等の「情報を柱とする科目群」「多文化理解」等の「グローバルを柱とする科目群」を学生の希望に応じて選択的に履修することで、各領域を広く、あるいは、特定の領域を深く学び、特色ある教育事務職員を育成する。また、実践力や実務能力の習得のために、「コミュニケーション論実習」や「学校・自治体インターンシップ」を開講する。

なお、すべての学年で年度当初にガイダンスを開催し、履修方法等をアナウンスし、資格等がミスなく取得できるように支援する。

(5) 履修コースの決定

一般入試では、教育支援専門職養成課程で募集する。1年次に「共通科目」及び「課程内共通科目」を履修し、2年進級時に、所属するコースを決定する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件（最低必要単位数） 128単位 共通科目は必修科目を含み29単位以上、専門教育科目は必修科目を含み82単位以上修得し、合計128単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））	1 学年の学期区分	2学期
○履修方法 《共通科目》 教養科目 17単位（必修12単位 選択5単位） 日本国憲法 2単位（必修2単位） 情報教育入門 2単位（必修2単位） 外国語科目 6単位（必修4単位 選択2単位） スポーツ科目 2単位（必修2単位）	1 学期の授業期間	15週
《専門教育科目》 課程内共通科目 22単位（必修16単位 選択6単位） 各コース専攻科目 50単位 （心理コース 必修10単位 選択40単位 合計50単位） （福祉コース 必修 9単位 選択41単位 合計50単位） （教育ガバナンスコース 必修10単位 選択40単位 合計50単位） 卒業研究 10単位（卒業論文を提出する。） 《自由科目》 17単位	1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(既設 現代学芸課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	教養科目 リテラシー学習領域	市民リテラシー	1後～2後	2			○			1	1					兼8	
		多文化リテラシー	1後～2後	2			○			2	3	1				兼10	
		科学リテラシー	1後～2後	2			○			2	4		1			兼6	
		ものづくりリテラシー	1後～2後	2			○			5	2	1				兼6	
		基本概念学習領域	基本概念	1後～2後	2			○		3	1	1				兼10	
	現代の課題学習領域	現代の課題	1後～2後	2			○		1	4					兼17		
	感性・創造学習領域	感性・創造	1後～2後	2			○		2	2					兼14		
	日本国憲法	日本国憲法	1前・1後	2			○									兼4	
	情報教育入門	情報教育入門	1前	2				○		2	4	1				兼7	
	外国語科目	英語	英語Ⅰ	1前	1				○		1			1			兼10
			英語Ⅱ	2後	1				○		1						兼12
		初習外国語科目 ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1後		1				○	1						兼2
			ドイツ語Ⅱ	2前		1				○	1	1					兼1
		フランス語	フランス語Ⅰ	1後		1				○		1					兼3
フランス語Ⅱ			2前		1				○		1					兼3	
中国語		中国語Ⅰ	1後		1				○	1						兼1	
		中国語Ⅱ	2前		1				○	1						兼2	
ポルトガル語		ポルトガル語Ⅰ	1後		1				○		1					兼1	
		ポルトガル語Ⅱ	2前		1				○		1					兼1	
英語コミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	1後	1					○	1						兼17		
	英語コミュニケーションⅡ	2前	1					○	3		1				兼16		
スポーツ科目	スポーツⅠ	1前・1後						○							兼15		
	スポーツⅡ	2前・2後						○							兼15		
初年次演習	初年次演習	1前						○	8	9	4	1					
小計(24科目)		—	8	22	0			—	8	9	4	1	0				
専門教育科目	共通基礎専攻科目	ヨーロッパ事情Ⅰ	1後		2			○			1						
		ヨーロッパ事情Ⅱ	1後		2			○			1						
		ヨーロッパ言語文化概説Ⅰ	2前		2				○		1						
		アジア関係史概説	2前		2				○		1						
		現代法論	1前		2				○		1						
		経済と社会	2後		2				○							兼1	
		社会学概論	2後		2				○			1					
		日本語教育学入門	1前		2				○			1					
		日本語学入門	1前		2				○			1					
		言語学入門	1前		2				○		1						
		臨床心理学Ⅰ	1後		2				○							兼1	
		地域福祉論	1後		2				○			1					
		精神科リハビリテーション学Ⅰ	2前		2				○							兼1	
		芸術概論A	1前		2				○			1					
		芸術概論B	1後		2				○		1						
		日本美術史概論Ⅰ	2前		2				○			1					
		日本美術史概論Ⅱ	2後		2				○			1					
		西洋美術史概論Ⅰ	2前		2				○		1						
		西洋美術史概論Ⅱ	2後		2				○		1						
		情報数学基礎A	1前		2				○							兼1	
		情報数学基礎C	1前		2				○							兼1	
		コンピュータ通論	1前		2				○		1						
		教育工学研究	2前		2				○		1						
		コンピュータ社会論	3前		2				○							兼1	
		メディア表現論	2前		2				○							兼1	
		教授学習論	3前		2				○		1						
		認知科学Ⅰ	2前		2				○			1				兼1	
力学Ⅰ	1後		2				○		1								
電磁気学Ⅰ	2前		2				○				1						
基礎天文学Ⅰ	2前		2				○							兼1			
宇宙科学Ⅰ	3前		2				○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
(専門教育科目)	目(共通基礎専門科目)	生化学	2前	2			○				1						
		有機化学Ⅰ	2前	2			○				1						
		植物分子遺伝学	2後	2			○				1						
		生物物理化学Ⅰ	2前	2			○				1						
		植物分子生理学Ⅰ	2前	2			○										
		植物繁殖論	2後	2			○									兼1	
		生物有機化学	2後	2			○			1						兼1 兼1	
	小計(38科目)	—	0	76	0				11	12	1	0	0				
(専門教育科目)	国際文化コース専攻科目	国際経済システム論	1前	2			○									兼1	
		異文化コミュニケーション論	1前	2			○									兼1	
		国際関係論	1後	2			○									兼1	
		比較文化論	1後	2			○									兼1	
		英語コミュニケーション演習Ⅰ	2前	2					○	1	1	1				兼1	
		英語コミュニケーション演習Ⅱ	2後	2					○		1	1				兼1	
		ヨーロッパ事情Ⅰ	1後		2			○			1						
		ヨーロッパ事情Ⅱ	1後		2			○			1						
		英米事情	2前		2			○								兼1	
		ヨーロッパ文化史	2前		2			○								兼1	
		イギリス文化史	2前		2			○				1					
		アメリカ文化史	2後		2			○					1				
		ヨーロッパ言語文化概説Ⅰ	2前		2			○			1						
		英文学概説	2前		2			○						1			
		米文学概説	2後		2			○			1						
		英文法	2前		2			○			1						
		歴史言語学	3前		2			○									兼1
		言語学史	3後		2			○									兼1
		ことばと人間	3前		2			○									兼1
		言語とジェンダー	3後		2			○									兼1
		日本語学概説	2後		2			○									兼1
		日本語史	3前		2			○									兼1
		欧米史Ⅰ	2前		2			○				1					兼1
		欧米史Ⅱ	2後		2			○									兼1
		欧米現代史	2後		2			○									兼1
		日本史概説	2前		2			○									兼1
		外国史概説	2後		2			○				1					兼1
		地理学基礎	2前		2			○									兼1
		地誌概説	2前		2			○									兼1
		哲学史概説Ⅱ	2前		2			○					1				
		哲学の諸問題	2後		2			○					1				
		ジェンダーと社会	2後		2			○									兼1
		日本美術史研究Ⅰ	3前		2			○									兼1
		日本美術史研究Ⅱ	3後		2			○									兼1
		西洋美術史研究Ⅰ	3前		2			○									兼1
		西洋美術史研究Ⅱ	3後		2			○									兼1
		国文学講義AⅠ	1前		2			○									兼2
		中国文学研究A	1前		2			○									兼1
		中国文学研究B	2前		2			○									兼1
		中国文学研究C	3後		2			○									
		中国文学史	3前		2			○					1				
		中国文化史	3前		2			○				1					
中国芸術文化論	2後		2			○					1						
中国思想史A	2後		2			○									兼1		
中国思想研究	3前		2			○				1							
アジア関係史概説	2前		2			○			1								
アジア社会史	3前		2			○									兼1		
法学概論(国際法を含む。)	2後		2			○									兼1		
政治学概論(国際政治を含む。)	1後		2			○					1						
経済学概論(国際経済を含む。)	3前		2			○									兼1		
経済と社会	2後		2			○									兼1		
社会学概論	2後		2			○				1							
社会情報システム論	3前		2			○									兼1		
比較社会研究Ⅰ	2前		2			○				1							
コミュニケーション論演習Ⅰ	2前		2			○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
(専門教育科目)	(国際文化コース専攻科目)	現代法論	1前		2		○			1							
		現代ドイツの政治と社会	2後		2		○			1							
		仏語コミュニケーション演習 I	2前		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 II	2前		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 III	2後		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 IV	2後		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 V	3前		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 VI	3前		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 VII	3後		2			○			1						
		仏語コミュニケーション演習 VIII	3後		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 I	2前		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 II	2前		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 III	2後		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 IV	2後		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 V	3前		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 VI	3前		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 VII	3後		2			○			1						
		独語コミュニケーション演習 VIII	3後		2			○			1						
		英語コミュニケーション演習 III	3前		2			○			1						兼1
		英語コミュニケーション演習 IV	3前		2			○			1						
		英語コミュニケーション演習 V	3後		2			○				1					兼1
		英語コミュニケーション演習 VI	3後		2			○					1				
		英語コミュニケーション演習 VII	4前		2			○			1						
		英語コミュニケーション演習 VIII	4後		2			○				1					
		フランス文化講読	3前		2			○									兼1
		ドイツ文化講読 I	2後		2			○			1						
		ドイツ文化講読 II	3前		2			○			1						
		英米生活文化講読 I	2後		2			○				1					
		英米生活文化講読 II	3前		2			○					1				
		英米生活文化講読 III	3後		2			○					1				
		ヨーロッパ文学特論	3後		2			○									兼1
		ヨーロッパ現代文学	3後		2			○									兼1
		ヨーロッパ言語文化概説 II	3後		2			○				1					
		ヨーロッパ文芸演習	3後		2				○		1						
		英語学概説	3後		2			○									兼1
		英米文化特論 I	3前		2			○									兼1
		英米文化特論 II	3前		2			○			1						
		アメリカ文化研究 I	3前		2				○			1					
		アメリカ文化研究 II	3後		2				○				1				
		欧米現代思想研究 I	3前		2				○								兼1
		欧米現代思想研究 II	3前		2				○								兼1
		哲学研究	3後		2			○					1				
		イギリス社会史特論	2後		2			○									兼1
		欧米史 III	3後		2			○									兼1
		ヨーロッパ女性史研究 I	3前		2				○			1					
ヨーロッパ女性史研究 II	3前		2				○			1							
欧米現代史演習	3前		2				○								兼1		
フランス文化演習	3後		2				○								兼1		
イギリス文化演習 I	3前		2				○						1				
イギリス文化演習 II	3後		2				○						1				
中国語演習 I	2前		2				○			1							
中国語演習 II	2前		2				○			1							
中国語演習 III	2後		2				○			1							
中国語演習 IV	2後		2				○			1							
中国言語文化史 I	3前		2				○			1							
中国言語文化史 II	3後		2				○				1						
中国近現代文学講読 I	3前		2				○			1							
中国近現代文学講読 II	3後		2				○				1						
中国文化論	3後		2				○								兼1		
アジア文化演習	3前		2				○				1						
中国近代政治思想史 I	3前		2				○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
(専門教育科目)	(国際文化コース専攻科目)	中国近代政治思想史Ⅱ	3後	2		○			1							
		アジアの政治と社会Ⅰ	3前	2			○		1							
		アジアの政治と社会Ⅱ	3後	2			○		1							
		中国現代政治史	3後	2			○		1							
		法学基礎演習	2前	2			○		1							
		政治学基礎演習	2後	2			○									兼1
		経済学基礎演習	2前	2			○					1				
		社会学基礎演習	2後	2			○					1				
		比較法制度論	3前	2			○									兼1
		比較法基礎論	3後	2			○									兼1
		比較法制度論演習Ⅰ	3前	2				○		1						
		比較法制度論演習Ⅱ	3後	2				○		1						
		比較法研究	4前	2				○		1						
		国際人権法論	3前	2			○									兼1
		比較政治学	3前	2			○									兼1
		比較政治学演習Ⅰ	3前	2				○				1				
		比較政治学研究	3後	2				○								兼1
		比較政治学演習Ⅱ	4前	2				○								兼1
		現代政治論	3前	2			○									兼1
		現代政治史	3後	2			○						1			
		西洋政治思想	3後	2			○						1			
		国際経済学Ⅰ	3前	2			○						1			
		国際経済学Ⅱ	3後	2			○						1			
		国際金融論Ⅰ	3前	2			○						1			
		国際金融論Ⅱ	3後	2			○						1			
		国際経済学実習	4後	1					○				1			
		経済政策論Ⅰ	3前	2			○									兼1
		経済政策論Ⅱ	3後	2			○									兼1
		応用経済学Ⅰ	3前	2			○									兼1
		応用経済学Ⅱ	3後	2			○									兼1
		金融論	3後	2			○					1				
		環境経済学	3後	2			○									兼1
		経済政策論実習	4後	1					○							兼1
		現代社会学Ⅰ	3前	2			○									兼1
		現代社会学Ⅱ	3後	2			○									兼1
		現代社会学演習Ⅰ	3前	2				○		1						
		現代社会学演習Ⅱ	3後	2				○								兼1
		社会調査実習	3前	1					○		1					兼1
		比較社会研究Ⅱ	3後	2			○				1					
		比較社会学演習Ⅰ	4前	2				○								兼1
		比較社会学演習Ⅱ	4後	2				○								兼1
		コミュニケーション論演習Ⅱ	3後	2				○								兼1
		コミュニケーション論実習Ⅰ	4前	1					○		1					
		コミュニケーション論実習Ⅱ	4後	1					○		1					
		宗教の諸問題	3後	2			○									兼1
		国際文化論文演習	4前	2				○		6	5	4	1	0		
小計(162科目)		—	12	307	0	—	—	7	5	5	1	0				
(専門教育科目)	日本語教育コース専攻科目	日本語教育学入門	1前	2			○									
		日本語学入門	1前	2			○				1					
		言語学入門	1前	2			○			1						
		異文化コミュニケーション論	1前	2			○			1						
		日本語教育実習Ⅰ	2後	2							1					
		日本語教育実習Ⅱ	3前	2							1					
		日本語教授法	2後	2			○				1					
		日本語学演習Ⅰ	2前	2				○			1					
		日本語学演習Ⅱ	2後	2				○			1					
		音声学	1後	2			○									兼1
		対照言語学Ⅰ	2前	2				○		1						兼1
		対照言語学Ⅱ	2後	2				○								兼1
		外国語演習Ⅰ	1前	2				○					1			
外国語演習Ⅱ	1後	2				○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
(専門教育科目)	(日本語教育コース専攻科目)	外国語演習Ⅲ	2前	2			○									兼1			
		日本語教育学概説	1後	2			○									1	兼1		
		日本語教育教材研究	2前	2			○										兼1		
		日本語教育評価法	3前	2			○										1	兼1	
		第二言語習得論	3後	2			○											兼1	
		年少者日本語教育概説	3前	2			○											1	兼1
		異文化理解教育論	3後	2			○				1								
		日本語教育実践研究Ⅰ	3後	2			○		○									1	
		日本語教育実践研究Ⅱ	3後	2			○		○		1								
		日本語教育演習Ⅰ	4前	2			○		○				1						
		日本語教育演習Ⅱ	4後	2			○		○				1						
		日本語学概説	2後	2			○						1						
		日本語学研究	3後	2			○						1						
		日本語史	3前	2			○						1						
		日本語学演習Ⅲ	3前	2			○		○				1						
		言語コミュニケーション論	1後	2			○											兼1	
		言語学研究Ⅰ	2前	2			○				1								
		言語学研究Ⅱ	2後	2			○				1								
		社会言語学概論	2後	2			○				1								
		心理言語学概論	3後	2			○											兼1	
		歴史言語学	3前	2			○				1								
		言語学史	3後	2			○				1								
		英文法	2前	2			○											兼1	
		国文学史概説	3前	2			○											兼2	
		国文学講義BⅠ	3前	2			○											兼1	
		国文学演習CⅠ	2後	2			○		○									兼1	
		書道演習Ⅰ	1後	2			○		○									兼3	
		中国文学研究A	1前	2			○											兼1	
		中国文学研究B	3前	2			○											兼1	
		中国文学史	3前	2			○											兼1	
		英米事情	2前	2			○											兼1	
		英文学概説	2前	2			○											兼1	
		米文学概説	2後	2			○											兼1	
ことばと人間	3前	2			○											兼1			
言語とジェンダー	3後	2			○											兼1			
日本語教育研究Ⅰ	4前	2					○												
日本語教育研究Ⅱ	4前	2					○												
小計(51科目)		—	24	78	0		—		3	2	0	1	0						
臨床福祉心理コース専攻科目	心理学	3前	2			○						1							
	ソーシャルワーク総論Ⅰ	2前	2					○			1								
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2後	2					○			1								
	パーソナリティ論	3後	2			○			1										
	地域福祉論	1後	2			○					1								
	社会福祉原論Ⅰ	2前	2			○			1										
	社会福祉原論Ⅱ	3後	2			○			1										
	医学概論	1前	2			○										兼1			
	社会調査論	2前	2			○										兼1			
	精神医学Ⅰ	1前	2			○										兼1			
	精神医学Ⅱ	1後	2			○										兼1			
	臨床心理学Ⅰ	1後	2			○										兼1			
	臨床心理学Ⅱ	1後	2			○										兼1			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2後	2					○			1								
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	2					○			1								
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前	2					○		1									
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前	2					○		1									
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後	2					○								兼1			
	公的扶助論	1後	2			○										兼1			
	社会保障論Ⅰ	1後	2			○						1							
	社会保障論Ⅱ	3前	2			○						1							
権利擁護と成年後見	1前	2			○										兼1				
児童・家庭福祉論	2前	2			○										兼1				
障害者福祉論	2前	2			○				1										
高齢者福祉論	2後	2			○						1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
(専門教育科目)	(臨床福祉・心理コース専攻科目)	就労支援論	2後	1		○										兼1
		保健医療論	2後	2		○										兼1
		司法福祉論	2前	1		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅰ	1前	2		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅱ	1後	2		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅲ	2前	2		○										兼1
		社会福祉学研究Ⅰ	3前	2				○		1	2					兼1
		社会福祉学研究Ⅱ	3後	2				○		1	2					兼1
		社会福祉学研究Ⅲ	4前	2				○		1	2					兼1
		社会福祉学研究Ⅳ	4後	2				○		1	2					兼1
		コミュニティワーク	3後	2				○			1					
		ソーシャルワークⅠ	3前	2				○			1					
		ソーシャルワークⅡ	3後	2				○			1					
		ソーシャルワークⅢ	3前	2				○		1						
		ソーシャルワークⅣ	3後	2				○			1					
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3前	1					○		1					
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3後	1					○		1					
		社会福祉実習	3前	6					○	1	2					
		介護概論	3前	2				○								兼1
		心と身体を理解	2前	2				○		1						
		コミュニティ援助論	3前	2				○				1				
		福祉行政と福祉計画	3後	2				○					1			兼1
		福祉運営管理論	3後	2				○								兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅰ	2前	2				○								兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅱ	3前	2				○								兼1
		心理療法論Ⅰ	2前	2				○		1						
		心理療法論Ⅱ	2後	2				○				1				
		カウンセリング論	2前	2				○								兼1
		社会調査演習	3前	2					○							兼1
		臨床心理演習	3後	2					○							兼1
		臨床心理実習	3前	6						1		1				
		臨床心理学研究Ⅰ	3前	2					○	1		1				
		臨床心理学研究Ⅱ	3後	2					○	1		1				
臨床心理学研究Ⅲ	4前	2					○	1		1						
臨床心理学研究Ⅳ	4後	2					○	1		1						
小計(60科目)		—	10	114	0		—	2	2	1	0	0				
造形文化コース専攻科目	芸術概論A	1前	2			○				1						
	芸術概論B	1後	2			○			1							
	造形基礎Ⅰ	1前	1					○	1	1						
	造形基礎Ⅱ	1後	1					○	2							
	造形基礎Ⅲ	2前	1					○	3	1						
	造形基礎Ⅳ	2後	1					○	3	1						
	日本美術史概論Ⅰ	2前	2				○			1						
	日本美術史概論Ⅱ	2後	2				○			1						
	西洋美術史概論Ⅰ	2前	2				○		1							
	西洋美術史概論Ⅱ	2後	2				○		1							
	絵画Ⅰ	1前		2							○				兼1	
	絵画Ⅱ	1後		2							○				兼1	
	絵画Ⅲ	2前		2							○				兼1	
	立体造形基礎	1前		2							○				兼1	
	彫刻基礎	2前		2							○				兼1	
	デザインⅠ	2前		2				○				1				
	デザインⅡ	2後		2				○				1				
	プロダクト研究	3前		2				○				1				
	デザイン論	3後		2				○				1				
	美術史現地指導Ⅰ	1後		2					1							
	美術史現地指導Ⅱ	2後		2								1				
	造形材料学Ⅰ	3前		2				○		3	2					
	造形材料学Ⅱ	3後		2				○		3	2					
工芸論	2後		2				○							兼1		
工芸・デザイン史	2後		2				○							兼1		
住宅設計論	2前		1											兼1		
造形研究Ⅰ	3前		2				○		3	2						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手						
(専門教育科目)	(造形文化コース専攻科目)	造形研究Ⅱ	3後		1				○			3	2						
		造形研究Ⅲ	4前		2				○			3	2						
		造形研究Ⅳ	4後		2				○			3	2						
		造形制作指導Ⅰ	4前		2				○			3	2						
		造形制作指導Ⅱ	4後		2				○			3	2						
		プロダクトデザインⅠ	3前		2						○			1					
		プロダクトデザインⅡ	3後		2						○			1					
		プロダクトデザインⅢ	4前		2						○			1					
		プロダクトデザインⅣ	4後		2						○			1					
		陶芸実技Ⅰ	3前		2						○		1						
		陶芸実技Ⅱ	3後		2						○		1						
		陶芸実技Ⅲ	4前		2						○		1						
		陶芸実技Ⅳ	4後		2						○		1						
		金工実技Ⅰ	3前		1						○		1						
		金工実技Ⅱ	3後		1						○		1						
		金工実技Ⅲ	4前		6						○		1						
		金工実技Ⅳ	4後		2						○		1						
		ガラス実技Ⅰ	3前		2						○			1					
		ガラス実技Ⅱ	3後		2						○			1					
		ガラス実技Ⅲ	4前		2						○			1					
		ガラス実技Ⅳ	4後		2						○			1					
		染織実技Ⅰ	3前		2						○		1						
		染織実技Ⅱ	3後		2						○		1						
		染織実技Ⅲ	4前		2						○		1						
		染織実技Ⅳ	4後		2						○		1						
		日本美術史研究Ⅰ	3前		2				○					1					
		日本美術史研究Ⅱ	3後		2				○					1					
		西洋美術史研究Ⅰ	3前		2				○				1						
		西洋美術史研究Ⅱ	3後		6				○				1						
		美術史演習AⅠ	3前		2					○				1					
		美術史演習AⅡ	3後		2					○				1					
		美術史演習AⅢ	4前		2					○				1					
		美術史演習AⅣ	4後		2					○				1					
		美術史演習BⅠ	3前		2					○			1						
		美術史演習BⅡ	3後		2					○			1						
		美術史演習BⅢ	4前		2					○			1						
		美術史演習BⅣ	4後		2					○			1						
		美術史原書購読Ⅰ	4前		2					○									兼1
		美術史原書購読Ⅱ	4後		2					○									兼1
		美術史現地指導Ⅲ	3前		2					○				1					
		美術史現地指導Ⅳ	4前		2					○				1					
		日本美術史	2前		2				○										兼1
		西洋美術史	2後		2				○										兼1
		東洋美術史	3前		2				○										兼1
		比較文化論	1後		2				○										兼1
		ヨーロッパ文化史	2前		2				○										兼1
		イギリス文化史	2前		2				○										兼1
		アメリカ文化史	2後		2				○										兼1
		哲学史概説Ⅱ	2前		2				○										兼1
		哲学の諸問題	2後		2				○										兼1
ジェンダーと社会	2後		2				○										兼1		
欧米史Ⅰ	2前		2				○										兼1		
欧米史Ⅱ	2後		2				○										兼1		
欧米現代史	2後		2				○										兼1		
中国文化史	3前		2				○										兼1		
中国芸術文化論	2後		2				○										兼1		
比較社会研究Ⅰ	2前		2					○									兼1		
コミュニケーション論演習Ⅰ	2前		2						○								兼1		
ヨーロッパ現代文学	3後		2				○										兼1		
博物館概論	2前～3後		2				○										兼1		
博物館情報・メディア論	2前		2				○										兼1		
博物館経営論	3前		2				○										兼1		
博物館資料論	3前		2				○										兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
(専門教育科目)	(造形文化 コース専攻科)	博物館資料保存論	3後		2		○									兼1
	博物館展示論	3後		2		○										兼2
		博物館教育論	3後		2		○									兼1
		博物館実習	4前		3			○								
		小計(94科目)	—	16	173	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	情報科学 コース専攻科目	レポートライティング	1前	2			○									
		プレゼンテーション	1後	2			○									
		プログラミングⅠ	1前	2			○									
		プログラミングⅡ	1後	2			○			1	3	1				
		プログラミングⅢ	2前	2			○			1	3	1				兼1
		情報数学基礎A	1前	2			○									兼1
		情報数学基礎B	1前	2			○									兼1
		情報数学基礎C	1前	2			○									兼1
		情報通信ネットワーク	2後	2			○									兼1
		情報通信ネットワーク演習Ⅰ	3前	2			○	○				1				兼1
		コンピュータ通論	1前	2			○			1						
		オペレーティングシステム	2前	2			○			1						
		データベースⅠ	2後	2			○			1						
		システム設計論	2後	2			○									兼1
		メディア表現入門	2前	2			○	○								兼1
		教育工学研究	2前	2			○			1						
		教育統計	2後	2			○			1						
		情報と職業	2前	2			○				1					
		コンピュータ社会論	3前	2			○									兼1
		情報学研究Ⅰ	3後	2			○	○		3	4	1				兼4
		情報学研究Ⅱ	4前	2				○	○	3	4	1				兼4
		情報学研究Ⅲ	4後	2				○	○	3	4	1				兼4
		情報システム論	3前		2		○									兼1
		ソフトウェア工学	3前	2			○									兼1
		データベースⅡ	3前	2				○		1						
		システム最適化	3前	2				○								兼1
		コンピュータ応用システム	3後	2				○								兼1
		知識情報処理	2前	2			○									兼1
		知能情報処理	3後	2				○			1					
		音声情報処理	3後	2			○									兼1
		画像情報処理	2後	2			○				1					
		コンピュータビジョン	3後	2			○				1					
		コンピュータグラフィックス	3前	2			○				1					
		情報システム管理	3後	2			○				1					
		情報通信ネットワーク演習Ⅱ	3後	2				○								兼1
		ネットワークアプリケーション	3後	2				○				1				
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2後	2			○			1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3前	2				○		1						
		プログラミング方法論	2後	2				○			1					
		コンピュータ言語処理	3前	2				○								兼1
		メディア表現論	2前	2			○									兼1
		メディア表現実習	2後	2				○								兼1
		メディア制作A	3前	2				○								兼1
		メディア制作B	3前	2				○								兼1
		情報デザイン	3後	2				○								兼1
		教育情報システムⅠ	2後	2				○								兼1
		教育情報システムⅡ	3前	2				○		1						
		教育統計実習	3前	2				○		1						
		教授学習論	3前	2				○		1						
		コンピュータ利用教育	3後	2				○								兼1
		授業デザイン論	3後	2				○			1					
		情報数学教育演習	3後	2				○								兼1
		認知科学Ⅰ	2前	2				○			1					兼1
		認知科学Ⅱ	2後	2				○			1					
		認知行動研究Ⅰ	3前	2				○			1					
		認知行動研究Ⅱ	3後	2				○			1					
		インターフェイスデザイン	2後	2				○			1					
		情報理論	1後	2				○				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
(専門教育科目)	(情報科学コース専攻科)	情報数学応用A	1後		2		○									兼1		
		情報数学応用B	1後		2		○			1						兼1		
		記号論理	2後		2		○									兼1		
		ファジィ理論	3前		2		○									兼1		
		情報産業論	2後		2		○									兼1		
		経済と情報	2後		2		○									兼1		
		法と情報	3後		2		○									兼1		
小計(65科目)		—	44	86	0	—			4	4	1	0	0					
(専門教育科目)	自然科学コース専攻科目	物理学	1前		2		○					1	1					
		物理学実験	1後		1				○		1		1					
		化学	1前		2		○				1	1						
		化学実験	1後		1				○		1	2						
		生物学	1前		2		○										兼1	
		生物学実験	2前		1				○			2					兼1	
		地学	1前		2		○							1			兼2	
		地学実験	2前		1				○		1						兼1	
		物理数学Ⅰ	1前		2		○					1						
		物理数学演習	1前		2			○					1					
		物理数学Ⅱ	1後		2		○						1					
		力学Ⅰ	1後		2		○				1							
		力学演習	1後		2			○			1							
		電磁気学Ⅰ	2前		2		○						1					
		宇宙・物質ゼミナールⅠ	4前		2			○			3	1	1					
		基礎天文学Ⅰ	2前		2		○											兼1
		宇宙・物質ゼミナールⅡ	4後		2			○			3	1	1					
		力学Ⅱ	2前			2		○			1							
		電磁気学演習	2前			2			○					1				
		電磁気学Ⅱ	2後			2		○						1				
		量子力学Ⅰ	3前			2		○						1				
		量子力学演習	3前			2			○					1				
		量子力学Ⅱ	3後			2		○						1				
		熱統計力学	2後			2		○			1							
		熱統計力学演習	2後			2			○		1							
		コンピュータプログラミング演習	2後			2			○		1							
		連続体力学	3前			2		○			1							
		相対論	3後			2		○			1							
		物性物理学A	4前			2		○						1				
		物性物理学B	4前			2		○			1							
		素粒子物理学A	4前			2		○			1							
		素粒子物理学B	4前			2		○					1					
		基礎天文学Ⅱ	3後			2		○			1							
		宇宙科学Ⅰ	3前			2		○			1							
		宇宙科学Ⅱ	3後			2		○			1		1					
		宇宙物理学A	4前			2		○			1		1		1			
		宇宙物理学B	4前			2		○			1							
		物質科学実験Ⅰ	3前			1				○	2		1					
		物質科学実験Ⅱ	3前			1				○	2		1					
		物質科学実験Ⅲ	3後			1				○	2		1					
		物質科学実験Ⅳ	3後			1				○	2		1					
		物理学特別実験	4前			1				○	2		1					
宇宙科学実験Ⅰ	3前			1				○	1				1					
宇宙科学実験Ⅱ	3前			1				○	1									
生物科学基礎ゼミナールⅠ	1前			2				○								兼1		
生物科学基礎ゼミナールⅡ	1後			2				○								兼1		
生物科学基礎ゼミナールⅢ	1後			2				○			1							
基礎化学ゼミナールⅠ	1前			2				○	1									
基礎化学ゼミナールⅡ	1後			2				○			1							
基礎化学ゼミナールⅢ	1後			2				○			1							
分子生命基礎	1前			2			○				1							
生化学	2前			2			○				1							
有機化学Ⅰ	2前			2			○				1							
遺伝学	2前			2			○				1							
生物物理化学Ⅰ	2前			2			○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
(専門教育科目)	(自然科学コース専攻科目)	植物分子生理学Ⅰ	2前	2			○									兼1	
		植物繁殖論	2後	2			○									兼1	
		生物有機化学	2後	2			○										
		分子機能・生命科学ゼミナールⅠ	4前	2				○		1	4						
		分子機能・生命科学ゼミナールⅡ	4後	2					○	1	4						
		分子生物学	2後		2			○			1						
		有機化学Ⅱ	2後		2			○			1						
		有機化学演習	3前		2				○		1						
		植物分子遺伝学	2後		2			○			1						
		生物物理化学Ⅱ	2後		2			○			1						
		植物分子生理学Ⅱ	2後		2			○									兼1
		植物育成論	3前		2			○									兼1
		天然物化学	3前		2			○			1						
		生化学・分子生物学実験	2後		1					○	1	1					
		有機化学実験	2後		1					○	1						
		生物物理化学実験	3前		1					○		1					
		植物遺伝資源実験	3前		1					○		1					
		植物分子生理学実験	3前		1					○							兼1
		植物育成実習	3前		1					○		1					兼1
		分子機能科学特論	4前		2			○			1	2					
		生命科学特論	3後		2			○									兼1
分子機能科学演習	3後		2				○		1	2							
生命科学演習	3後		2				○			2							
分子機能・生命科学特別実験	3後		1					○	1	4							
博物館概論	2前～3後		2				○			1					兼2		
博物館実習	4前		3					○		1							
小計 (81 科目)		—	62	83	0		—		4	5	1	1	0				
教育科目	教育科目	卒業研究	4前後	10					○								
		教師論	1後			2	○										兼6
		教育原論	1前			2	○										兼6
		発達と学習の心理学	1前			2	○										兼6
		教育の社会的研究	2前			2	○										兼5
		道德教育の研究	2後			2	○										兼5
		教科外活動の研究	3後			2	○										兼3
		教育の方法と技術	3前			2	○										兼3
		生活の指導と相談A	3後			2	○										兼3
		生活の指導と相談B	4前			2	○										兼3
		教職実践演習 (中学校・高等学校)	4後			2			○								
		教育実地研究 (中学校又は高等学校実習)	4前			5				○							
		教育実地研究(高等学校実習：福祉又は情報)	4前			3											
小計 (12 科目)		—	0	0	28		—		0	0	0	0	0				
教科教育科目	教科の指導法	国語科教育CⅠ	2後			2	○									兼1	
		国語科教育CⅡ	3前			2	○									兼1	
		国語科教育CⅢ	3後			2	○									兼1	
		国語科教育CⅣ	4前			2	○									兼1	
		社会科教育CⅠ	2後			2	○									兼1	
		社会科教育CⅡ	3前			2	○									兼1	
		社会科教育CⅢ (地理歴史分野)	3後			2	○									兼1	
		社会科教育CⅣ (公民分野)	4前			2	○									兼1	
		理科教育CⅠ	2後			2	○									兼1	
		理科教育CⅡ	3前			2	○									兼1	
		理科教育CⅢ	3後			2	○									兼1	
		理科教育CⅣ	4前			2	○									兼1	
		美術科教育CⅠ	2後			2	○									兼1	
		美術科教育CⅡ	3前			2	○									兼1	
		美術科教育CⅢ	3後			2	○									兼1	
		美術科教育CⅣ	4前			2	○									兼1	
		英語科教育CⅠ	2後			2	○									兼1	
英語科教育CⅡ	3前			2	○									兼1			
英語科教育CⅢ	3後			2	○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教科教育科目	教科の指導法	英語科教育CⅣ	4前			2	○									兼1
		公民科教育CⅠ	4後			2	○									兼1
		福祉科教育CⅠ	3後			2	○			1						
		福祉科教育CⅡ	4前			2	○			1						
		情報科教育CⅠ	2後			2	○				1					
		情報科教育CⅡ	3前			2	○									
小計（25科目）		—	0	0	50	—			1	1	0	0	0			
合計（613科目）			—	186	939	78	—			24	21	8	3	0		
学位又は称号	学士（学芸）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、文学関係、理学関係、美術関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>現代学芸課程の卒業要件は、本学に4年以上在学し、次の各号に定める単位を含め、128単位以上を修得することとする。</p> <p>(1) 教養科目 12単位 (2) 日本国憲法 2単位 (3) 情報教育入門 2単位 (4) 外国語科目 6単位 (5) スポーツ科目 2単位 (6) 初年次教育 1単位 (7) 専門教育科目 国際文化コース 82単位 日本語教育コース 82単位 臨床福祉心理コース 78単位 造形文化コース 78単位 情報科学コース 82単位 自然科学コース 82単位</p>						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							